Dialogue

Creating the Next 60 Years

『記念事業実施報告書』

2015年5月28日

本学名誉人文学博士 大和田康之氏（1期生）を迎えて

ICU

60th Year

献学60周年記念事業

国際基督教大学

大和田康之氏（1 期生）が語る ICU

5 月 22 日（金）に名誉人文学博士学位の称号を授与された 1 期生の大和田康之氏は、5 月 28 日（木）、スティール , M. ウィリアム献学 60 周年記念教授（メジャー : 歴史学）の授業「近代日本と ICU」にゲストスピーカーとして登壇し、ICU での学生生活を、当時の歴史的背景や自分史と交錯させながら、熱心に語りました。

大和田氏は、語学研修所時代から本学で学び、1957 年 3 月に 1 期生として本学を卒業後、同大学院を経て、コロンビア大学 Teachers College から 1959 年に修士号、1966 年に博士号を授与され、帰国後は 1963 年から 6 年間にわたり国際基督教大学学長補佐を務めると同時に、1967 年からは教鞭もとり、本学がリベラルアーツ大学の礎を築く上で、多大なる貢献をされた方です。さらに、2002 年からは JICUF の理事長等を務め、13 年の長きにわたり、教員の派遣、国際的な学生の支援、東ヶ崎潔記念ダイアログハウス、新 3 寮の建設など、同財団を通じた本学の支援に格段のリーダーシップを発揮されました。

授業の冒頭は自分史から始まりました。大和田氏は官吏であった父親が服務する中国大陸で 1934 年に生まれました。その年は満州国に溥儀が皇帝として即位した康徳元年であり、「康」はその康徳からとられたとのことです。その後、大和田氏はその幼少期を白系ロシア、イタリアなどの子供たちと共に、中国大陸で過ごすことになります。

ICU を知ったのは、 帰国後に福島で過ごしていた高校時代で、 熱心なクリスチャンであった母親が大伯父に当たるクリスチャン動物学者の大島正満から受け取った ICU 設立に関する募金の知らせがきっかけでした。

大和田氏は、 そのような自分史を織りまぜながら、 草創期の ICU の様子をまるで昨日のことのように、 臨場感豊かに語り、 耳を傾ける学生たちはその生き生きとした口調から、 キャンパスに家族と共に住んでいた教授たちの様子、 様式トイレにカルチャーショックを受けた友人の表情、教職員と学生とが集う聖書研究会の緊張感、 キャンパス内の牧場から教授宅に自転車で牛乳を届ける同級生が、 アルバイトの最中にタイヤが滑って転倒し瓶が割れてしまったことなど、 生きた歴史を、時に身を乗り出して真剣に、時に明るく笑いながら、存分に肌で感じ取っていました。

授業の後も、 学生たちは大和田氏を囲んで様々な質問を投げかけ、 大和田氏もひとつひとつの質問に丁寧に時間をかけて答えていました。